

KSSS 2023 参加報告

加藤欽志

福島県立医科大学医学部 整形外科学講座

2023年5月24日から26日まで韓国ソウルにて開催された The 40th International Congress of Korean Society of Spine Surgery に日本脊椎脊髄病学会の推薦をいただき、トラベリングフェローとして学会参加をさせていただきました(写真1)。

本会は韓国脊椎外科学会(KSSS)の総会にあたる会合ですが、すべての口演発表・ディスカッションが英語で行われ、韓国、日本だけでなくアジア各国から脊椎外科医が参加し活発な議論が行われておりました。唯一、ランチョン・セミナーは、韓国語(スライドは英語)での発表となっております。宿泊先は *ibis Ambassador Seoul Myeongdong* を KSSS にご準備いただき、大変快適に過ごすことができました。

私は、”Age-related differences in lower extremity muscle tightness and low back pain in young baseball players: a cross-sectional study of 1215 players aged 6 to 16 years“という演題を発表させていただきました。この研究では、福島県内の6~16歳の野球選手1215名を対象に、腸腰筋、大腿四頭筋、ハムストリングスの筋柔軟性を評価し、年齢別に筋の柔軟性とシーズン中に発生した腰痛との関連を検討しました。結果として、腸腰筋、大腿四頭筋、ハムストリングスの筋柔軟性は年齢が上がるにつれて低下する傾向があり、特に11から14歳の間における大腿四頭筋の柔軟性の低下が最も急速であることが明らかになりました。多変量解析を用いて体格、練習量、下肢のスポーツ障害の既往歴で調整した結果、11から14歳までの選手において、大腿四頭筋の筋柔軟性と腰痛の発生との間に統計学的に有意な関連が認められました。

韓国では野球が盛んなこともあってか、座長の先生から野球選手の腰痛の原因についてなど、いくつかのご質問を受けることができました。また、私が参加した腰椎のセッションでは、低侵襲手術手技、脊柱変形矯正の至適基準の作成、ヘルニア術後における Modic 変化の意義、腰椎術後の性生活への影響など、バラエティに富んだ演題が議論されており、大変興味深く参加させていただきました。

今回の学会参加では「Otter」という英語文字起こしアプリを活用しました。質疑応答中のリアルタイムでの使用は難しいですが、発表終了後に質問された内

容や実際のやりとりを確認でき、英語学習には有用なツールと感じました。COVID-19の影響で国際学会への現地参加から数年間離れておりましたが、今後は積極的に見聞を深め、福島での日々の診療、研究に還元していきたいと思えます。

このような貴重な機会を与えていただきました日本脊椎脊髄病学会および国際委員会の関係者皆様、また学会参加に快く送り出してくださった同僚の先生方にこの場をお借りして深謝いたします。



写真 1